

●特別企画● 多様化する消費者ニーズへの対応

葬儀の変化に伴う、生花需要の変化

一般葬と家族葬では生花祭壇が6割超、生花祭壇では洋花が主流に、生花のうち国産菊の割合は依然として高い、菊の選定基準、祭壇だけでなく会館全体の装飾も視野に

●仏壇特集●

10年後、50年後の経営を見据えて、商品やサービスの企画開発、売り場や売り方の改善を株式会社はせがわ、「映箱うつしばこ」

●石材特集●

「墓石まわり」の企業に聞く

梶原建設株式会社、株式会社クレア、株式会社生田化研社

独自のコーティング技術で、石材店の差別化を支援 「お墓参り」という文化の継続にもつなげたい

交通安全施設の設計・施工・管理を基幹事業として、安定した経営を続けてきた梶原建設株式会社。さらなる経営基盤の確立をめざして、13年前にスタートしたのが「セラミックコーティング事業」だ。柱の錆びや劣化・風化を防ぐ溶剤を開発している企業との縁をきっかけとしてコーティング剤の開発に着手し、密着性・耐久性に優れた「新世代のコーティング」を生み出した。

橋や車から試験施工を開始するも、既に別のコーティング剤が流通している業界では価格競争にならざるを得ず、なかなか利益に結びつかない。そこで着目したのが、「コーティング」という発想そのものが存在しない墓石業界だった。



梶原匡弘常務取締役

墓石業界に「コーティング」を導入

街で見かける交通標識や道路の白線、交差点やカーブに設置された反射鏡、公園内にある案内図。梶原建設が主に手がけるのは、そうした「地域の安全を守る」交通安全施設の設計・施工・管理だ。取引先の98パーセントは官公庁であり、安全性に不安がある地点への施設拡充の提案から施工、メンテナンスまでをワンストップで担ってきた42年の実績はゆるぎない信頼感につながっている。「車と道路がある限り続く」といっても過言ではない事業の安定感こそ同社の最大の強みだろう。

とはいえ、企業を長く維持していくためには、変化も必要だ。同社にとって、潮目が変わる瞬間は、13年前の「新世代のコーティング」が誕生した瞬間だった。

問題は、どの業界に打って出るべきか――。

コーティング事業を新たな柱に据えるべく考えを巡らせていた梶原氏に閃きが訪れたのは、先祖のお墓を訪れ、お墓を清めている最中だった。

「お墓の掃除をしていると、あちこちに劣化が見られました。こびりついた汚れや錆びなどは、一生懸命掃除をしてもなかなか取れません。そのとき、

墓石をコーティングしておけばもっと掃除が楽になり、劣化も防げるのではないかと思ったんです」（梶原氏）

もちろん、当時の石材業界に「墓石をコーティングする」という発想はなく、競合はいない。さっそく営業を開始するが、時代の先を行く新しい提案を素直に受け入れてくれる寺院や石材店はなかなか見つからなかった。

「不謹慎だと怒られたり、相手にしてもらえなかったり、最初のうちは苦労しましたね。それでも何とか粘って、実績を積み重ねていったんです。同時に、石を知り、石に合わせてコーティング剤を進化させる努力もしました」

こうして完成したお墓独自のコーティング剤は、防錆効果・防汚性が高く、1年に1度の水拭きだけでもきれいな状態を保てるという優れた効果を発揮した。ぴったりと石に密着するので、紫外線や酸性雨の影響も受けにくい。さらに、公害などの原因となる汚染物質を一切含まないので、環境にやさしいという点もポイントだ。実際にコーティングした墓石と、何もしていない墓石の状態を1～2年後に比

べると、その差は歴然だという。

効果が目に見えるようになると、引き合いも増えていった。最近では、霊園からの問い合わせも多いという。霊園内の墓石と合わせて、園内の案内板やカーブミラーといった施設の発注がくることもあるというのは同社ならではの。官公庁との長年にわたる取引実績も、業界を代表する大手企業や施主からの信頼につながっている。

コーティング効果を高める クリーニングや補修も同時施工

人間がそうであるように、石も生きている。そして、生きている以上、衰えていくのもまた同じだ。できるのは、劣化のスピードを遅らせることだろう。同社のコーティングは、墓石の良い状態を長く維持することを目的とし、「つやを出す」ことより「劣化を遅らせる」ことを重視している。

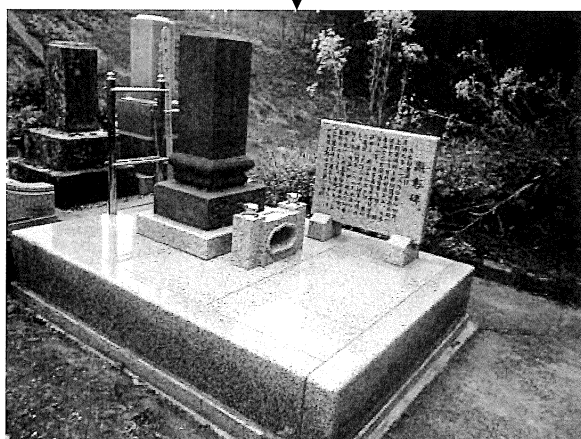
実際のコーティングに入る前の準備に時間をかけるのもそのためだ。最初にコーティングをより効果的にするためのクリーニングや目地交換、欠け補修などを行って墓石を建墓時に近い状態まで戻してから、コーティングを施していく。こうすることで、建墓時に近い美しい状態を長期にわたって保つことができる。

「石を知り尽くした職人が日焼けの染み抜きや錆び取り、黒ずみや彫刻に入り込んだ苔の除去などの作業を行うことにより、石の風合いを損なわずに本来の美しさを取り戻すことができます。特に黒い墓石は、色が甦りますよ。時間の経過とともに読み取りにくくなる文字部分も、文字中専用のコーティングを施すことで字がくっきりと見えるようになります」

作業に当たっては、まず墓石専用の溶剤を使い、墓石に付着した汚れを落とす。溶剤は奥まで浸透するの



施工前



施工後



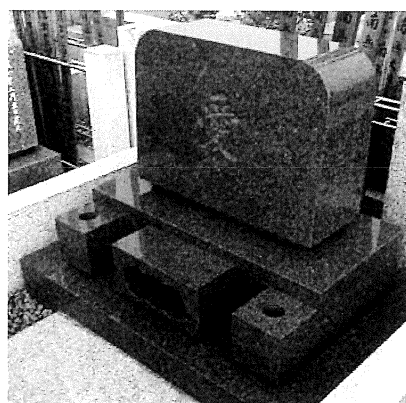
黒施工前



黒施工後



赤施工前



赤施工後



万成施工前

万成花立施工前



万成施工後

万成花立施工後

で、染み込んだ汚れも柔らかくなり、次に使用する
 高圧洗浄機で落としやすくなるという。

それでも落ちない頑固な汚れは、墓石を研磨する
 機械で削りおとしていく。石は一切傷つけず、表面
 に付着した汚れだけを取り除いていくというハイレ
 ベルな作業だ。

次に、下地専用コート剤を繰り返し塗布する。

「石には、小さな穴がたくさん開いているので、
 そのままコーティング剤を塗るとまだらになってし
 まいます。穴の開きかたは石によってまったく違
 いますから、一つひとつの石と会話しながら穴を埋め、
 均一になるまで下地を塗布します」

ここまでの前処理が済んだらコーティングに移る
 が、使用するコーティング剤にも「石を知る」同社
 ならではのこだわりがある。

「すべての現場で同じコーティング剤を使うので
 はなく、石の種類や、汚れの付き具合、さらに周辺
 環境によって、職人が現地で最終調査したものを塗
 布します。仕上がりで拭き上げるところまで含め、
 全工程を終えるのに丸一日から二日かかることも珍
 しくありません。それでも、お墓はお施主様にとっ
 てかけがえのない場所ですから、心をこめてじっく
 りと作業するのが当然だと思っています。施工後も、

ご依頼があれば何度も足を運びますよ。現地に行く
 際は必ず雑巾を持って行き、拭き掃除をして帰るこ
 とも徹底しています」

墓石の付加価値を上げ、 石材店とともに幸せになりたい

現場での施工からアフターフォローまで一切手を
 抜かないというスタイルを貫くため、同社はいまの
 ところ関東のみでサービスを展開している。ゆくゆ
 くは、サービスレベルを落とさずに事業範囲を拡大
 する手立てを考え、必要とされている地域へもサー
 ビスを展開していきたいとしている。

また、コーティングを墓石の付加価値として、販
 売数拡大やリフォーム受注など「石材店とともに幸
 せになれる」仕組みづくりにも乗り出したい考えだ。

「年をとってお墓に行くのがつらくなったり、遠
 方で思うように通えなかったりする人が増え、お墓
 参りという習慣が失われつつあると聞きます。しか
 し、日本人にとって、お墓はご先祖様とつながる大
 切な拠り所です。コーティングによって、お墓にい
 きたいけどなかなかいけない、という人の負担を減
 らし、お墓参りという文化を残すことにもつなげて
 いけるといいですね」